

資料 4

令和 7 年度 各専門部会等の活動報告

令和 8 年(2026) 7 月 8 日

出雲市健康福祉部福祉推進課

令和 7 年度 じりつ専門部会（施設からの地域移行 WG） 報告書

部会メンバー	部会長：濱村（光風園）、副部会長：高尾（出雲サンホーム） メンバー：玉木、川島、米山（かのん）、富岡（Reve） 事務局：砂田、佐藤
テーマ（ねらい）	グループホームからの地域移行をかなえる具体的な手立てを考える。
活動状況	■施設からの地域移行 WG 5 回開催〔5/7、8/12、9/25、2/25、3/24〕 ○昨年度実施のアンケートから地域移行のためのニーズを抽出。相談支援専門員が本人と一緒に考えて考えるためのツールを検討した。 ○地域移行アドバイザーを相談支援専門員から選任し、じりつ部会と基幹相談支援センターとで共有した。 ○12 月サービス調整会議にてチェックリストおよびアドバイザーについて、周知した。 ■にも包括 WG との合同 WG 2 回開催〔11/11、3/24〕 ○じりつ部会 WG 合同の協議にて、各 WG の活動報告と進捗状況を共有。アドバイザーやチェックリストの発信に向け、意見を募った。
成果	○グループホームから地域に移行するための意識づけや資源の活用方法を利用者と共に考えるチェックリストの発信と、相談支援専門員にむけた相談窓口を設けた。サービス調整会議以降の周知期間が短く、地域移行に取り組んでいるケース担当相談員に対する今年度の聞き取りでは、取り組みの認知と浸透が不十分であることがわかった。
課題 次年度への方向性	○チェックリスト、基幹相談支援センターを通じたアドバイザーの活用を推進できる促しを、定着を図る。ニーズに応じて、サービス調整会議または基幹相談支援センターおよび主任相談支援専門員が企画する研修等の機会において検討を行う。ツールのアップデートを随時行う。
その他	令和 6 年の報酬改定によりグループホームからの地域移行支援も算定できるが、地域移行支援を算定している相談支援事業所が圏域では限定されている。知識不足や、周知がなされていない可能性もある。計画相談と地域移行支援の事例について学ぶ機会があると良い。

令和7年度 じりつ専門部会（にも包括ワーキング） 報告書

部会メンバー (○副部会長)	そうゆう相談センター（○勝部・森谷）、出雲保健所（土井・小玉） ふあっと（○渡部）、事務局 福祉推進課（藤原・小山）
テーマ（ねらい）	○長期入院患者の退院を促進する為の体制作りを行う ○チーム支援実現に向けた「あったらいいな」を形にする
活 動 状 況	○第1回 WG（5月8日） ・R6年度の成果を踏まえ年間事業計画の検討 ○第2回 WG（6月19日） ・精神疾患がある高齢者の入退院支援、精神科医療機関との連携についてのアンケート調査（居宅介護支援事業所・施設）結果の分析、まとめ、役割分担 ○第3回 WG（7月24日） ・各医療機関へのアンケート調査結果報告について ○アンケート調査報告、病院相談員との意見交換 ・こころの医療センター10名、WG5名（8月7日） ・こなんホスピタル1名、WG5名（8月19日） ・海星病院3名、WG7名（8月25日） ○第4回 WG（9月9日） ・包括支援会議 地域移行支援にかかる事例研修会について ○第5回 WG（9月25日） ・包括支援会議 地域移行支援にかかる事例研修会について ・こころの医療センターと事前打ち合わせ ○第6回 WG（10月17日） ・包括支援会議 地域移行支援にかかる事例研修会について ○包括支援会議 地域移行支援にかかる事例研修会事前打合せ（10月29日） ・こころの医療センター2名、WG5名 ○第7回 WG（11月11日） ・包括支援会議 地域移行支援にかかる事例研修会について ○包括支援会議 地域移行支援にかかる事例研修会（11月20日） ○第8回 WG（12月22日） ・包括支援会議 地域移行支援にかかる事例研修会の振り返り GのFT担当者に聞き取り（4名）WG参加（2名） ○包括支援会議 地域移行支援にかかる事例研修会評価結果報告（1月23日） ・こころの医療センター2名、WG5名 ○第9回 WG（2月20日） ・こころの医療センターへ事例検討の結果返し振り返りについて ・アンケート調査結果返しについて ・次年度に向けての流れ

	○第 10 回 WG（3 月 23 日） ・アンケート調査結果の回答について ・次年度、部会の取り組みについて （次年度第 1 回 WG 4 月 13 日予定）
	○部会合同会議（11 月 11 日） ・各 WG の年間事業計画の進捗状況の報告 ○部会合同会議（3 月 24 日） ・各 WG の年間事業の報告
成 果	○アンケート調査結果からケアマネ、施設から精神科医療機関との連携について意見を聞くことができた。その結果を元に病院相談員との意見交換を行い入退院時の支援であったらいいなと思う意見を聞くことができた。 地域移行支援にかかる研修会において連携、チーム作りを軸に多職種での事例検討を行う事ができた。
課 題 次年度への方向性	○長期入院患者の退院を促進する為に関係機関の役割や業務を理解し多職種でのチーム支援を形にする

令和7年度 こども専門部会 報告書

部会メンバー	部会長：岡本（さざなみ学園） 副部会長：田中（プレーゲ） メンバー：松村（さざなみ学園）、福田由（プレーゲ） 矢田（ハートピア出雲スマイル）、岡（つくつく）、夕永（CS いずも） 事務局：青木・藤原（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	重症心身障がい児や医ケア児、外国籍児、行動障がい児などよりきめ細やかな支援が必要な児の児童発達支援や放課後等デイサービス、短期入所等の受入れ促進に向けて、関連した関係機関や相談支援専門員等が抱えている現状・課題を継続的に把握し、前年度に明確化した課題も含めて方向性を検討する。
活動状況	■部会開催 7回 [4/23、5/13、7/16、9/17、10/15、12/17、2/18] ※1/21 大雪中止 ①短期入所事業所との意見交換 6/18(水)10:00～11:30 参加：2事業所(児童対象) サービス提供事業所との情報交換を通して事業所の特色の違いや課題、受入れ促進のためのアイデアを共有した。また同業同士の相互理解を深めることができた。 ②相談支援専門員との意見交換会 11/10(月)10:00～11:30 参加：16名（児童担当のみ） 子どもを取り巻く環境の『つながりにくさ』を踏まえ、相談支援専門員が日々感じている課題やアイデアを話し合った。 ③出雲圏域医療依存度の高い在宅療養児の生活支援検討会（出雲保健所主催） 12/16(火)14:00～16:00 部会長・事務局 参加 出雲圏域の医療的ケア児の最新状況を知り取組や今後の方向性を聞くことができた。
成果	①について それぞれの事業所の特徴や受入れ状況、利用しにくい要因など情報共有を行った。地域の中でニーズは高いが（市外からの利用希望もあり）、利用可能な事業所の受け皿が少なく、そのような中でも体制整備をはかり可能な限り受入れに尽力されている様子がわかった。また、利用促進のためのアイデアを聞くことができた。 ②について 各サービス提供事業所との協議で出た意見を報告した上で、サービスに限らず、学校や家庭を含めた子どもを巡る環境とのつながりにくさについて、児童担当の相談支援専門員とグループワークを行った。『効率的な情報共有手段の構築』や、『民間有償サービス料金の補助・上限を設定する』など、多角的な視点からの意見を聞くことができた。児童担当の相談支援専門員が抱えるものが多く大きいと実感されていることもあり、相談支援サポート体制の整備を期待する声もあった。 ③について 医療依存度の高い医療的ケア児の在宅療養の状況や保育園・学校の受入れ、災害時対応、保護者・きょうだい支援等、出雲圏域の現状を把握した。看護師の人材確

	保に向けた取組みや具体的な避難訓練・避難さんぽの実施、在宅のみで過ごす児への支援等、今後の取組の方向性を聞くことができた。
課題 次年度への方向性	令和６・７年度を取組課題についてまとめ提言する。また、令和９年度以降の部会の方向性を検討する。

令和7年度 そうだん専門部会 報告書

部会メンバー	ハートピア出雲：布野寛明（部会長）、景山一優 ふあっと：足立須和子（副部会長）、渡部和子 事務局（福祉推進課）：山本課長補佐、青木係長
テーマ（ねらい）	やりがいを感じながらスキルアップできるように地域の中での OJT の実施など、人材育成の仕組み作りを行う。
活動状況	5月＜第1回専門部会＞ ・人材育成の現状と課題の整理 5月＜市町村と基幹相談支援センター、主任相談支援専門員等の連絡会義への参加＞ 7月＜第2回専門部会＞ ・人材育成の現状と課題の整理 8月＜第3回専門部会＞ ・人材育成の現状と課題の整理 9月 ・主任相談支援専門員連絡会にて人材育成について意見交換を行う 10月＜第4回専門部会＞ ・基幹相談支援センターと中核相談による人材育成の仕組みについての検討 ・出雲版セルフチェックシートの検討 11月＜第5回専門部会＞ ・出雲版セルフチェックシートの作成 ・中核相談の役割についての検討 1月 ・先進地実地研修への参加（倉敷地域基幹相談支援センターにて実施） 3月＜第6回専門部会＞ ・相談支援体制についての協議（中核相談・基本相談）
成果	●出雲版セルフチェックシートの作成 相談支援専門員自身が相談支援専門員に求められる力、資質をセルフチェックしたり、人材育成のツールとして活用できるように、他の地域での取り組みも参考にしながら、出雲版セルフチェックシートの下案を作成した。 ●相談支援体制について 基幹相談支援センター、中核相談、基本相談、指定特定の役割を整理し、それぞれの役割を明確化した。
課題 次年度への方向性	●出雲版セルフチェックシートの完成版を作成する。 ●令和9年度からの相談支援体制に向けての整備を行う。

令和7年度 就労支援ネットワーク会議 報告書

メンバー	リーダー：青木（あそび） サブリーダー：萬代（ハートピア出雲） 書記：平木（出雲養護学校） 佐藤（飾彩房） 佐藤（あそび） 柳楽（ワークセンターフロンティア） 二岡（虹の工房まるべりー） 柳楽（ぽんぽん船） 山本（やまびこ園） 小豆澤（豆の樹） 山根（ハローワーク出雲） 福田（リーフ） 鍵山（こころの医療センター） 原（出雲保健所） 佐藤（アトリエール） 原（県立東部高等技術校） 藤井（県立東部高等技術校） 細木（しまね東部若者サポートステーション） 森山（島根県中小企業同友会／Office Sou） 吉川（スタンドUP） 福間（太陽の里） 藤江（ミライカ） 永田（エルパティオ三葉園） 長岡（エルパティオ三葉園） 森山（出雲村田製作所） 小滝（らいとあっぷいずも） 事務局：森山（福祉推進課） 高木（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	1. 障がい者の一般就労を支援する組織横断的な事業の企画運営 2. 企業とのつながり作り 3. 一般就労にむけた支援ノウハウの普及浸透 4. ゆるやかな就労定着支援の場の提供 5. 「就労選択支援」の出雲での運用のあり方について検討する
活動状況	◆ネットワーク会議の開催 年6回 4/23、6/24、8/7、10/15、12/18、2/12 ◆事例検討 ネットワーク会議時に実施 ◆合同ジョブガイダンス〈job ガイダンス 2025〉 10月1日（水）13：30～16：00 出雲弥生の森博物館 体験学習室 13名参加 +引率者5名 内容：講義①「働くための心構え～履歴書・面接・ビジネスマナー」 模擬面接会 講義②「企業が求める人物像」 ◆いずもの福祉事業所見学会 障がい者雇用に関心のある企業の方を対象とした福祉事業所見学会 10月22日（水） 市内13福祉事業所の見学会 28事業所(44名)参加 意見交換会 16事業所(23名)10福祉事業所(10名)スタッフ(8名)参加 ◆福祉から一般就労へステップアップ意見交換会 福祉就労事業所等のスタッフを対象に、一般就労支援のノウハウを情報提供 12月12日（金） 13：30～15：30 出雲弥生の森博物館 体験学習室 20事業所 28名参加 事例紹介、就労移行支援体制加算・障がい者雇用制度の紹介、グループワーク

	◆はたらく仲間のコーヒータイム 一般就労で働く障がい者の気軽な集い 「ふじひろ珈琲」にて 毎月第3金曜日 18:00～19:00 ◆#ツリーカフェ 障がい者雇用をめぐる情報交換の場 「スターバックスコーヒーゆめタウン出雲店」にて 偶数月第2木曜 18:00～20:00頃
成 果	1. 障がい者の一般就労を支援する組織横断的な事業の企画運営 定期的にネットワーク会議を開催し、事業の企画・実施に共に取り組んだ。一般就労を目指す当事者のための学習機会として合同ジョブガイダンスを開催。動画教材「自分にあった働き方について考える」を活用した就職活動支援講座、模擬面接会、ハローワーク担当者による「企業が求める人物像」講義を実施した。 2. 企業とのつながり作り 「いずもの福祉事業所見学会」を実施した。企業の採用担当者に福祉事業所の利用者が実際に働く現場を見てもらい、就労の可能性について理解を深めてもらうこと、あわせて業務連携の可能性を考えてもらうことと、障がい者雇用における、当事者への関わり方や配慮の事例を伝える場にするを目的に企画。市内の福祉事業所13か所から3事業所を選んで見学してもらう形をとり、企業側のニーズに合わせて多くの事業所を知ってもらうことができた。また、見学後の意見交換会では企業・福祉双方の参加者が感想や質問など自由に話し合い、相互理解を深めることができた。 障がい者雇用をめぐる気軽な情報交換の場として「#ツリーカフェ」を継続的に開催している。 3. 一般就労にむけた支援ノウハウの普及浸透 就労系福祉事業所スタッフ、精神科デイケアスタッフ、本年度より相談支援専門員も対象に加えてを対象とした意見交換会を開催。福祉から一般就労へステップアップされた事例を取り上げ、事業所内で支援するスタッフの取り組みや相談支援専門員・各関係機関との連携について意見交換を行った。また障がい者雇用支援制度の活用方法や就労移行支援体制加算について例示しながら情報共有を行った。具体的な取り組みの進め方や、事業所として一般就労支援に取り組むメリットがよく理解できたと好評であった。 4. ゆるやかな就労定着支援の場の提供 一般就労している当事者への就労定着支援として「はたらく仲間のコーヒータイム」を開催している。仲間のつながりの中で近況や悩みごとなどを話せるリフレッシュの場となっている。
課題 次年度への方向性	1. 障がい者の一般就労を支援する組織横断的な事業の企画運営 就労支援をめぐる連携協働のネットワークの重要性は変わらない。福祉に限

	らず幅広い関係者が集い、共に考え、共に活動する協働のプラットフォームとして継続していく。 合同ジョブガイダンスについては参加者数が減少傾向であるため、プログラム内容や周知方法の検討を行いたい。 2. 企業とのつながり作り 障がい者雇用率の段階的な引き上げ等により、障がい者雇用は推進拡大の途上にある。関心やニーズが増大する一方で、依然として躊躇している企業、不安を抱いている企業は多く、任せる業務内容の創出をどうしたらいいのか、職場内での理解促進に苦慮するといった悩みが寄せられる。また、支援制度や支援機関について情報が十分に届いていない状況も伺える。福祉事業所見学会や＃ツリーカフェの取り組みを継続し、企業とのつながりや相互理解をさらに広げ、深めていけるよう模索したい。 3. 一般就労にむけた支援ノウハウの普及浸透 市内には多数の就労系福祉事業所があるが、そのほとんどが就労継続支援事業所である。一般就労へ向けた支援の経験が乏しい事業所も多く、利用者から就職の希望を言われたときに何から始めたらいいかわからないという声がある。また、就労準備性に関する認識や評価は事業所やスタッフにより様々である。また担当する相談支援専門員が一般就労に向けた知識が不足しているなどもあり、就職への足かせになりかねない懸念もある。事業所スタッフが一定の知識を持ち合わせておくことでスムーズな一般就労への移行が実現可能となる。就職を希望する当事者に広くチャレンジの機会を保証できるよう、情報交換会を継続して実施していく。次年度に向けては、より参加してもらいやすいよう開催時期や周知方法を検討するとともに、参加呼びかけの対象を拡大したい。 4. ゆるやかな就労定着支援の場の提供 一般で働く障がい当事者のためのゆるやかな集いの場として「はたらく仲間のコーヒータイム」を月1回のペースで息長く継続していく。幅広く活用してもらえるよう対象者に声かけをしていきたい。 5. 「就労選択支援」に関する情報共有と協力体制作り R7 年秋より導入の「就労選択支援」について、市内でも実施予定の事業所がある。サービスを必要とする当事者が効果的に利用できるよう、制度の内容や出雲地域の実情に沿った運用のあり方について関係者間で情報共有を図り、協力体制を作っていく。
--	---

令和7年度 サビ管・児発管等ネットワーク会議 報告書

メ ン バ ー	会長：池田（ぽこぽこ） 副会長：永田（エルパティオ） 書記：金友（WANA JAPAN） ＜メンバー＞ （１）居住系 WG：大谷（光風園）、矢野（わかば） （２）グループホーム系 WG：富岡（ふあっと）、布野（ユナイト） （３）日中活動系 WG：金友（WANA JAPAN）、福島（麦の家） （４）就労支援 WG：永田（エルパティオ）、吉川（スタンド UP） 小滝（らいとあっぷいずも） （５）居宅介護 WG：松井（さくら） （６）児童通所 WG：寄貞（すだちクラブ） 加本（いろどり） 丸亀（スタンドバイ YOU） 事務局：萬代（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	（１） サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者等が、情報交換やサービスの質の向上に繋がる取組を行いながら、孤立しない顔の見えるネットワークの構築を目指す。 （２） 縦の繋がりを深める為にはどのような取り組みが必要か検討する。
活 動 状 況	（１） サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者のサービスの質の向上を目指す ①会の開催 年４回（４／２５、７／８、１０／１４、２／３） ・各WGの活動報告 ・研修等の企画、準備 ②WGの開催（年間計画参照） ※居宅介護WGの活動ができていない。 （２） ビヨンドプロジェクト ・今年度は「児」と「者」との意見交換会を行う。 ①事業種を越えて意見交換や勉強会を企画 ＜ビヨンドプロジェクト（１／２８）＞ ・「【働く力】と【生きる力】をどう育むか？～児童期から大人のくらしまで、切れ目のない支援を考える～」と題し、ワールドカフェ方式で実施。
成 果	（１） サビ・児発管のサービスの質の向上を目指す。 ・各WGからの活動報告により、事業所での困り感や取り組みなど事業種を越えて学ぶ事ができた。 ・居宅介護WGが開催できていない事のアンケート調査を実施。

	(2) 事業種を越えて意見交換、勉強会 ・全WGを対象に参加してもらい当日欠席される方もおられたが、サビ・児発管以外の現場の職員の方の参加もあり【働く力】と【生きる力】を地域でどう支えていけるかをテーマに意見交換など行えた。今回の話し合われた中でいくつか課題が見えてきた。
課題 次年度への方向性	○サビ・児発管のサービスの質の向上を目指す。 ・各WGで事例検討や勉強会を通して質の向上を図る。 ・各WGで解決できない課題をあげてもらい、検討し必要に応じて市へ要望書を提出する。 ○事業種を越えて意見交換や勉強会を行う。 ・ビヨンドプロジェクトで見えてきた課題を解決に向けて動けるか検討。 ・必要に応じてビヨンドプロジェクト実施。

(1)【居住系ワーキング】

メンバー	・代表：矢野信子（わかば）、大谷智絵（光風園） - 樋野司（美野園）、浅津真弓（サンホーム）、森山征治（太陽の里） - 藤井英史（わかば）・福岡圭子（ふたば） - 木村太郎・福代ゆか（さざなみ学園）
テーマ（ねらい）	(1) 各施設情報交換を行いサービスの質の向上に繋がる取り組みを行いながら孤立しない顔の見えるネットワーク構築を目指す。 (2) 情報交換を主として、サビ管が抱える課題について話し合う。
活動状況	下記年間実績のとおり
成果	(1) 虐待防止・権利擁護研修の実施 (2) 毎回情報交換を行うことで、課題解決へ進むヒントを得る事ができた。横のつながりができた。 今年度は、途中からさざなみ学園にも参加してもらうようになり、活発に意見交換ができた。
課題 次年度への方向性	家族対応や職員の育成、会議の実施方法など、情報交換を主とした取り組みを次年度も引き続き取り組んで行きたい。 メンバーも大きく変わったので、以前実施した施設見学を実施していきたい。
その他	今年度実施できなかった、虐待防止研修へ各施設の支援員も参加できるよう働きかけていく。

・年間実績

	開催日時	内 容	参加者数
1 回 目	R7.5.9（金） 15：30～17：00	・ネットワーク会議の報告 ・今年度の活動計画確認 ・情報交換	5 名
2 回 目	R7.7.18（金） 15：30～17：00	・ネットワーク会議の報告 ・虐待防止・権利擁護研修の企画・準備 ・情報交換	6 名
3 回 目	R7.11.12（金） 15：30～17：00	・ネットワーク会議の報告 ・虐待防止・権利擁護研修（各施設から事例を持ち 寄り検討・意見交換） ・情報交換	5 名
4 回 目	R7.2.6（金） 15：30～17：00	・今年度の振り返り ・次年度の活動内容・体制について ・情報交換	4 名

(2)【グループホームワーキング】

メ ン バ ー	・グループホーム：18 事業所 ・代表：布野氏（ユナイト）、富岡（ふあっとほおむ） 長澤氏（はまなす）、井田氏（ふたばホーム）、吉田氏（ぼてとはう す）、竹内氏（彩華荘）、グループホーム光風園、小豆澤氏・福城氏（つ ばめ）、福田氏（太陽の里）、金友氏（WANAJAPAN）、古澤氏（桑友 グループホーム）、伊藤氏（わんぱくハウス）、犬山氏（ウェルガーデ ンたんぼぼ）、佐々木氏（さくらトパーズ）、村松氏（こといろ）、矢 田氏（ビータベース）、石富氏（ハートフルホームかんど）、河原氏（わ くわくホーム）
テーマ（ねらい）	グループホームに関する情報交換や質の向上に繋がる取り組みを 行いながら、孤立しないネットワークの構築を目指す。
活 動 状 況	グループホームの見学、情報交換、虐待防止研修など実施
成 果	他のグループホームの見学会や地域連携推進会議に関する議題に ついて、参加者の関心が高く、参加メンバー同士で有意義な情報共有 ができた。他事業所での取組を参考にする機会となった。
課題 次年度への方向性	参加メンバーが限られている。ワーキングメンバーの関心の高い議 題や取組みを検討して継続したネットワークの構築を目指していく。

・年間実績

	開催日時	内 容	参加者数
1 回	R7. 5.16 （金） 15：30～17：00	・ネットワーク会議の位置付けについて（確認） ・今年度のワーキング活動計画	5 名

目		・ 情報交換	
2 回 目	R7. 7. 28 (月) 10 : 00～11 : 20	・ グループホームユナイトの見学 ・ 情報交換	9 名
3 回 目	R7. 10. 28 (火) 10 : 00～11 : 30	・ 障がい者虐待防止、権利擁護研修会 ・ じりつ部会からの依頼について ・ 情報交換	6 名
4 回 目	R7. 1. 20 (火) 10 : 00～11 : 30	・ 今年度振り返り ・ 来年度の活動について ・ 情報交換	5 名

(3)【日中活動系ワーキング】

メ ン バ ー	・ 日中活動系事業所：12 事業所 ・ 代表：麦の家（福島）、WANA JAPAN（金友）
テーマ（ねらい）	（１）情報交換やサービスの質の向上に繋がる研修等を行い、孤立しない顔の見えるネットワークの構築を目指す。 （２）事業種を超えて共通のテーマで意見交換（ビヨンドプロジェクト等）を行い、縦の繋がりを深める事で障がいのある方を切れ目なく支援する。
活 動 状 況	（１） 会の開催 年3回（6月・10月・2月） ・ 情報交換 ・ 障がい者虐待防止・権利擁護研修 （２） ビヨンドプロジェクトの実施
成 果	（１）参加は少人数だが、情報交換や虐待防止に関する意見（取り組みや課題点）が活発に出てきたことはよかった。事業所見学は好評で、参加者も多かった。 （２）ビヨンドプロジェクトでワールドカフェを実施。児童期と成人期のそれぞれの支援内容や課題を共有することができ、有意義な時間となった。
課題 次年度への方向性	・ 参加者が少ないため、もっと多くの方に参加してもらえよう、事業所見学は継続していく。また、地域課題を WG 内で検討する。

・ 年間実績

	開催日時	内 容	参加者数
1 回 目	R7. 7. 25 (金) 13 : 30～14 : 30	・ 今年度の活動報告について ・ 情報交換	6 名

2 回 目	R7.10.17（金） 13：30～14：30	・事業所見学 ・障がい者虐待防止・権利擁護研修	6名
3 回 目	R8.2.6（金） 13：30～14：30	・来年度の活動計画 ・情報交換 ※参加者少人数だったため、中止	未実施

（４）【就労支援ワーキング】

メンバー	・就労支援系事業所： A型6事業所、B型39事業所 ・代表：エルパティオ三葉園（永田）、らいとあつぷ（小滝） - スタンドUP（吉川）
テーマ（ねらい）	各施設の情報交換を行いサービスの質の向上に繋がる取り組みを行い、孤立しない顔の見えるネットワークの構築を目指す。 （２）事業種を超えて共通のテーマで意見交換（ビヨンドプロジェクト等）を行い、縦の繋がりを深める事で障がいのある方を切れ目なく支援する。
活動状況	会の開催 年5回（5月、7月、9月、11月、2月） イベント ★6月20日（金） ワールドカフェ ※出雲市役所・くにびき大ホール 16事業所18名参加 ★10月6日（月）～10月17日（金） 交換留学会 ※それぞれの事業所にて 受入れ施設16事業所 体験者17名 ★1月26日（月）⇒ 中止 就労支援事業所による事業所説明会 ※選挙関連で会場確保ができなくなったため
成果	（１）定期的な会の開催で事業所の悩み、取組みを共有することができた。他の事業所の取組みが参考になることも多かった。 （２）虐待防止・権利擁護研修では事例を交えての説明を聞くことでより身近に感じ、今後への対応に繋げることができた。 （３）イベントでは各事業所の支援員も参加できる内容とし、職員間の交流、学びの場とすることもできた。
課題 次年度への方向性	新しい事業所が増えていく中、参加メンバーが固定されてきている。就労支援ワーキングに参加してよかったと思える魅力のある会としていく。 現在の活動内容を継続し、サービス管理責任者の繋がりだけでなく各事業所の支援員も参加してもらうことで職員間の交流、学びの場の提供としていく。

	令和 9 年度報酬改定に向けての情報共有をおこなっていく。
--	-------------------------------

・年間実績

	開催日時	内 容	参加者数
1 回 目	R7.5.13 (火) 15:30~17:00	自己紹介 第1回サビ管・児発管等ネットワーク会議の報告 今年度の活動計画、担当について 情報交換	14 名
2 回 目	R7.7.15 (火) 15:30~17:00	第2回サビ管・児発管等ネットワーク会議の報告 各事業所より近況報告 各イベント班からの進捗状況 情報交換（工賃評価について）	18 名
3 回 目	R7.9.16 (火) 15:30~17:00	各イベント班からの進捗報告 各事業所より近況報告 情報交換（グループワーク） ※日常業務の中でサービス管理責任者としての悩み	18 名
4 回 目	R7.11.13 (木) 15:30~17:00	虐待防止・権利擁護研修 ※福祉推進課山本氏より出雲市の現状について説明 第3回サビ管・児発管等ネットワーク会議の報告 各事業所より近況報告	18 名
5 回 目	R8.2.10 (火) 15:30~17:00	第3回サビ管・児発管等ネットワーク会議の報告 ※ビヨンドプロジェクト2025（報告） 今年度の振り返り、次年度に向けて 情報交換（地震対応・運営指導）	12 名

（５）【児童通所系ワーキング】

メ ン バ ー	・代表：スタンドバイ YOU(丸亀)、いろどり（加本）、すだちクラブ（寄貞）
テーマ（ねらい）	（１）支援の質の向上を目指して
活 動 状 況	（１）会の開催（年４回/５月・９月・１１月・１月） （２）ビヨンドプロジェクト（１月２８日（水））開催 １０事業所/１２名参加
成 果	○支援の質を上げるために、共通の困り事を通して支援方法を学ぶ研修を行った。新規事業所の支援者にとっては参考になったのではない かと思う。 ○今年度のビヨンドプロジェクトは、【身につけたい力】を具体的に知

	ることができ参考になった。多くの事業所の参加があり、興味を示してもらえる内容だったと実感した。今後の開催の参考になればと思う。
課題 次年度への方向性	○児発と放デイのサービス提供時間が異なる、職員不足などの理由で参加できない事業所も多い。また、今後代表を交代できる人が限られているため、ワーキングの開催方法や頻度を検討する必要がある ○次年度は代表交代し、新体制でのスタートとなる。気軽に話せる雰囲気の中で横のつながりを深めていってほしい。

・年間実績

	開催日時	内 容	参加者数
1 回 目	R7.5.21（水） 10：30～12：00	○医ケア児・強度行動障害児・外国籍児を受け入れている事業所の現状を共有する ○支援中の困りごとを共有	17 名
2 回 目	R7.9.17（水） 10：30～12：00	○児発や放デイの現状と検討課題について ・事業所の空き状況確認 ・新規利用者を受け入れる方法を検討、改善できるところはないか？みんなで意見交換を行う ・福祉推進課の山本さんより、待機状況について情報共有	15 名 (うち、1名/ 福祉推進課、山 本)(うち1名/ 基幹相談支援 あんど布野)
3 回 目	R7.11.19（水） 10：30～12：00	○子どもの特性に合わせた環境調整 ・発達支援中心の事業所が少人数グループに分かれ、支援方法を共有	16 名
4 回 目	R8.1.21（水） 10：30～12：00	○ABC 分析/事例検討	14 名